

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100162		
法人名	アイコーポレーション株式会社		
事業所名	グループホームあい		
所在地	香川県高松市川部町1300番地1		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町受理日	令和6年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●いつでも玄関先やベランダに出ることができて季節を感じられる場面がある。(野菜や花をベランダで育てている)公園が目前にあり、気軽に散歩に行くことができる。●チームケアを大切に、常に相手の立場に立って、助け合い思いやりの気持ちで「自分だったら」「家族だったら」と考え話し合う機会を持つようにしている。●職員個人のスキルアップを目標に研修・勉強会に積極的に参加できる体制がある。●子育て世代でも働きやすい職場環境である。●川岡地区の行事、地域の福祉施設との交流を定期的に取り、グループホームで生活しているも、地域・社会とのつながりを継続でき、また新しい出会いや馴染みの関係が築ける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

運動公園の道を隔てた平屋の建物が事業所である。建物の周囲は塀などの障害を設けず、フラットである。裏には畑があり野菜の栽培もなされている。運営者の交代があったが、理念等は継承され、年度ごとに行動方針を職員が作成し、理念に沿った実践が変わらず続けられている。職員はスキルアップの意欲が高く、研修や技能の習得に積極的である。運営推進会議では近隣地域からの協力者も参加しており、人脈や事業所間の交流も見られる。地域密着型の事業所としてのモデル的な役割が大いに期待されている

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日	令和6年3月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社是、理念を朝礼で唱和している。理念をもとに1年間の介護目標を設定しチーム、個人で目標達成に取り組んでいる	社是、理念を基に職員が1年間の行動目標を定め、実践に取り組まれている。個々に実施状況を%で表し、理由を書いて報告するなど目標達成に努められている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和5年9月からコロナ禍により中止していた活動を再開しました。地域の文化祭行事に参加しました。フラダンス、獅子舞などのボランティアの訪問も再開されました	運営推進会議の関係者や、これまで交流してきた方々との行事や交流活動が再開されている。今後も地域イベント交流や訪問の受入れなど計画されており、事業所が地域住民に認識されるよう努められている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの認知症に対する問い合わせも多く、話を聞いたり、相談を受けたりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年9月からコロナ禍により中止していた活動を再開しました。偶数月の第2水曜日に開催。婦人会、近隣三町の民生委員、近隣の特別養護老人ホーム職員、行政、ご利用者とその家族、職員等が参加している。利用者のホームでの生活や行事を報告し、意見交換を行っている	運営推進会議は、定期的に多くの参加者を招集し、実施がなされている。利用者、ご家族も参加され生活の様子や行事の報告が行われ、意見交換がなされている	多方面の多くの方が集まれ実施されている運営推進会議の強みを活かし、更に運営推進会議の効果が大きくなるよう、専門家による講演や勉強会の企画、施設機能の地域への提供や地域防災への協力体制構築への発展と、利用者やご家族を含めた運営会議での検討結果の共有方法の見直しに期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議でご意見を頂いている。わからないことがあれば、介護保険課に質問をし、良い関係が築けている	地域包括支援センターより担当職員が運営推進会議に参加されている。わからないことなどは、担当課にその都度相談したり、教えてもらう関係が構築されている。また、近くの地域の老人保健施設や特別養護老人ホームとの情報交換等心掛けサービス向上に努められている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアを目指し「どういものが拘束になるのか」「どんな声掛けが拘束になるのか」(スリー(スピーチ・ドラッグ・フィジカル)ロック)等をテーマに定期的な内部研修、ユニットでの勉強会で学んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合は、ご家族の了承をいただき、経過を見ながら廃止に向けての話し合いを各ユニットで行い、検討・実践している。継続される場合その都度ご家族から了承を頂いている	身体拘束対策委員会にてマニュアルを作成、見直しや研修も実施されている。「丁寧な言葉遣い」のきっかけになったことは違いや事例には、職員が互いに注意し、全員で改善に取り組む体制となっている。日中玄関は施錠されておらず、訪問時、身体拘束の対象者はいない現状であった	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「愛と誠」の理念を中心に「丁寧な言葉や態度で接しましょう。利用者様にもスタッフにも」を目標に実践。高齢者虐待、不適切ケアをテーマに内部研修や、定例会の後の時間を使い勉強会を行い学ぶ機会を持っている。管理者は、不適切な言動がある時には注意をしている		

北館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員にリーフレットを配布し、一緒に読み学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはホームの方針「できること・できないこと」を分かりやすく説明し、ご利用者の意向に沿っての支援を行えるかを十分に説明し、意見交換を行い、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にご本人の様子をメールやLINEでお知らせしたり、面会時等に気軽に何でも言ってもらえるように声をかけをしたりと、関係性作りを試みている	面会は、場所は決められているが、時間制限は緩やかで、職員ともゆとり話し合いが持たれている。本人の様子はメールやラインを利用して、動画などでも報告がなされている。また、請求書に合わせて、写真などの様子も同封されている。家族会や運営推進会議には家族や利用者が参加し、意見が反映できるよう努められている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の管理者会、グループホーム内でのリーダー会・委員会・定例会・ユニットミーティングを行い、報告事項・現場職員の意見を聞く場となっている	管理者は代表者と管理者会等を通じてコミュニケーションが図られている。職員間は会議や研修を通じて縦横のつながりが持たれ、何でも話し合える関係が構築されている。不都合な点が生じると自主的に研修を行うなど適宜対応がなされている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しと改善を行っている。管理者は職員の働きぶりを代表者に伝えている。全職員対象の研修を1回/月開催し、個人の成長・チームでの成長を目標とし、意識・スキルアップのきっかけの場を提供している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は全職員対象に1回/月開催し、定例会後に勉強会の場を持ち、個人の成長・チームでの成長を目標とし、意識・スキルアップのきっかけの場を提供している。法人外研修はオンラインを利用して参加しています。パソコン等の機器が必要な職員には貸すこともあります		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設との交流、近隣の病院の勉強会などに参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所にあたりご本人の希望や思いや不安を聞いて、周囲の人との関係が円滑に出来ていくように職員が間に入り、関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がおかれる状況を聞き取り、十分に理解し、どのような要望があるのか、ホームで対応出来るものかを判断していくように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と面談を行い、医療面などご本人に合ったサービスが提供出来るかどうかを検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の活動にあたり足りないことをさりげなくサポートし一緒にやっている(洗濯物干し・洗濯物たみ・整理整頓・掃除・食器洗いなど)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時に、ご家族ができることや役割なども意見交換して協力を頂いている。面会時に状況報告を行い、状態の変化時には電話・LINEなどで速やかに連絡している。定期的に面会に来られているご家族もおられる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でもあったため、状況に合わせて面会・外出を行っている。現在、面会は家族のみで玄関又は居室で15分程度としている	面会は場所の規定や時間の制限はあるが、状況に応じて時間は延長して、臨機応変な対応がなされている。事業所の電話を自由に取り次ぐなど、馴染みの関係が継続できるよう支援がなされている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り話題をふり、他の利用者となじみの関係ができるように配慮している。また、食席やリビングの配置を変更したり、交流を持ちやすい環境を提供している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後に当ホームの対応が難しい場合は、ご本人の体調、ご本人やご家族の希望にそったサービスが提供できる事業所を提案し相談にのっている		

北館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のやりたいこと、したいことをきちんと確認したり、表情や行動から汲み取るようにしている。可能な限り実現に向けてご家族と相談し、ユニットにて話し合いを行い実行に繋げている	利用者と職員は良く話をし、その時の表情や会話から、行きたい所や、食べたいものなどの意向が把握されている。意向の実現のために、家族とも相談して、受診時の帰りに寄り道したり、食事に出かけられたりと支援がなされている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から直接聞き取りを行い、どのように生活してきたのか等を把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ない事ばかりでなく、出来ることに目を向けるよう努めている。朝・夕に申し送りを行い、職員が情報を共有把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いを聞いたり感じ取ったりして1回/月に行うユニットミーティングを行っている。職員の意見を参考に介護計画の作成を行っている。また面会時や電話にてご家族の意見や要望の確認を行っている	月1回はユニットミーティングを行い、ケアプランについて検討がなされている。意見を集約して介護支援専門員がモニタリング、プランの原案を作成し、本人やご家族の参加での担当者会議にて、立案検討がなされ承認後介護計画が確定されている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、ご本人の言ったことや様子をipadに入力し記録している。必要に応じて、用紙を用いて記録し適切なケアを行い情報共有できるように工夫している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でもあったため、外出を自粛していましたが、最近では感染予防に留意しながら少しずつ行っている。受診は、ご家族に連絡した上でスタッフが行うことが多いが、状況に応じてご家族が対応してくれたり、またご家族とスタッフと一緒に付き添うこともある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源の活用・交流の機会は減っている。ホームに届く市報をご利用者様とみて地域社会の変化や現状を知るようにしている		

北館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医を継続されるか、ホームの協力医療機関へ変更するかを、ご本人の状況を確認し決めている。協力医療機関の主治医には、基本2週間に1回往診していただいております。健康管理に努めている	協力医療機関の医師とは24時間体制で連携体制が構築されている。往診時は少人数づつ診察されているので、2週間に1回となるが、往診時に体調不良者があると、その都度の対応もなされている。歯科医師の往診もあり、整形や眼科などへは家族の通院付き添い、支援体制もある。認知症の方には専門医、保健師が往診して、治療以外の相談にも関わられている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調や表情の変化を見逃さないように、日頃からよく関わり早期発見に努めている。協力医療機関とは24時間体制で連携体制がある。毎朝(日・祝日以外)協力病院にご利用者の状態をFaxして報告相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の往診時から、気軽にご利用者のことや病気について質問などできる関係づくりを心掛けている。入院前・入院中・退院時など随時必要な情報を共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「終末期の看取り等について」意向確認書を記入して頂いている。また、状態の変化に応じて、その都度医師・ご家族・職員で話し合う機会を持つよう日程を調整し、ホームでの支援の方向性を決定している	入居時に看取りについて、意向を確認し書面でも残されている。状況の変化に従い、医師やご家族、事業所職員との話し合いが持たれ、支援の方向性が決められている。これまでも事業所での看取りの事例はあり、医師やご家族と協力して取組まれている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を社内研修でも勉強できる機会をもうけている。主治医への連絡方法は、インドネシアの職員にも理解できるようにルビ付の対応方法を提示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に職員に災害時の対応についての勉強会を持っている。消防訓練を年2回実施している。法人内で防火防災対策委員会を作り、消防訓練やその他の企画をすすめている	全事業所合同の防火防災対策委員会でマニュアル作成や見直し、訓練内容など検討、企画がなされている。事業所では、消防訓練が年2回実施されている。地域住民との協力体制は、コロナ禍後希薄となってしまっている	コロナ禍の影響にて、地域との連携継続が困難な状況がみられました。運営推進会議の参加者に協力を再度求めたり、地区消防団との合同訓練の実施や、近隣の事業所との協力体制の仕組み作りを通じ、更に災害に強い事業所及び地域の構築に期待します

北館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る際にはひと声かけてから入るようにしている。出来なくなったことが多くなってきているが、若い頃の得意なことを、そっとサポートすることで自信を失わないように支援している。介護目標の「丁寧な言葉や介護で接しましょう」をもとに各々職員が言葉使いや態度の振り返りを行っている	職員が自主的に研修会や反省会を行い、不適切な言葉や介護に自己採点して評価する仕組みがあり、丁寧な言葉遣いやプライバシー保護に留意した実践がなされている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自分で決められない方には「これとこれどっちがいい？」等、返事をしやすいように質問の仕方を工夫したり、表情の観察やご本人の好みを把握するようにしている。また、希望に添えないことで代替えを提案したり、ゆっくりと希望を聞くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れがあり、常にご利用者の希望に添えないこともあるが、ご本人のやりたい事やたくない事を尋ねながら、それらを出来る範囲で尊重し本人のペースでゆっくりと過ごせるように配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回なじみの美容室に来ていただいて散髪を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の状況の変化により一緒に作ったり盛り付ける機会はなくなったが、作っている時に新鮮な食材を見てもらうなどする。月に1度行う手作りおやつの中では食席と一緒に作っていたり、その様子を見学したりと楽しんで頂いています	ご飯やお汁はユニットで作り、副菜は業者から納品されている。きざみ食等への加工は、盛り付け時にユニットで行われている。月1回のおやつ作りでは、利用者、職員一緒になって楽しまれており好評である	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、ipat記録入力している。水分を一度にまとめて取れない方は何度も水分摂取の声かけて飲んでいただく。夜間に起きた時もお茶を飲んで頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声かけや誘導を行っている。自立している利用者の場合、羞恥心から洗面所で義歯を外すのを嫌がられることが多いので、声かけのタイミングや内容に配慮している。動作はできるが億劫な方には本人のペースに合わせてながら声をかけている		

北館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る動作と出来ない動作を見極め、必要な部分の介助のみを行うよう支援している。日中尿意がない方も訴えがある時はもとより、定期的に誘導して排泄介助を行っている。動作が自立している方でも汚染後の処理などそと手伝っている	自立されている方もおられるが、個々の排泄状況を把握されており、出来ない部分への自然な支援が心掛けられている。羞恥心等にも配慮がなされており、一人ひとりの利用者に合わせた声掛けど工夫がなされている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず自然排便ができるように水分摂取に気をつけている。入浴時や排泄介助時に、おへそ周りをなでる程度の「の」の字マッサージを行っている。また、毎日の集団体操などの運動により腸の動きへの働きかけを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される時に普通浴、機械浴で入浴できるが、夜間の対応は行っていない。入る順番は、こちらから声をかけた予約をするなど、入りたくなるような声かけや工夫をしている。全員個室になっており、職員との1対1の会話を楽しみながらゆっくりと入浴している	入浴は毎日、日中に準備されており、利用者に入浴したくなるような声掛けをした誘導がなされている。スライドするイス式の特浴と一般浴があり、週2回はゆっくり入浴できている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファの配置を工夫し、食席以外にホールや廊下にくつろげる場所がある。室温調節を適温に設定し、定期的に寝具干しや洗濯を行っている。居室でくつろがれたいときには自由に戻っていただいています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者個々の介護ファイルに最新のお薬情報が添付されている。変更時には、担当の薬剤師が職員に説明。Ipad、申し送り、LINEなどで職員間での情報共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折り、食器洗い、お盆拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみなどの家事を自分の役割だと思ったださっている利用者もおられる。本人の希望があれば外出支援で一緒に買い物に出掛け、そこで購入したものを召し上がったりもします		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園まで散歩に行ったり、玄関先のベンチにて体操や談話をして過ごし、外気にあたり季節を感じるように支援している。ペランダやプランターにご利用者と出来るようにな野菜を植えて一緒にお世話をしている。収穫時にも一緒に行い楽しんでいただいている。小グループで地域の行事などに出かけている	近くには運動公園があり、外出しやすい環境にあり、日常的に散歩への支援がなされている。玄関先は陽当たりが良く、花壇やプランターが並び、利用者が水やりや手入れをしたり、ベンチで日光浴を楽しまれている。また、季節ごと小グループでのドライブやイベント外出が計画的に実施されている。地域行事などにもお誘いを受け参加されている	

# 北館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	外出時にご本人がお金を支払う機会を設けている	/	/
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	本人自ら連絡したいと言われる時は施設の電話を利用して頂く。県外のご家族から電話がかかってきた時、ご本人につないでいる	/	/
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	散歩で外出した時に、拾った落ち葉や玄関先で摘んだお花を食席に飾ったりし、季節を感じてもらっている。また、日めくりカレンダーを目のつくところに置き、毎日めくってもらい、ご利用者が月日を意識できるようにしている。季節にあったポスターや手作りの壁飾りを壁に掲示している	平屋で建物内の中央部は広く、じゅうたんを敷いた通路は、机や椅子応接セットを置いても十分な広さである。利用者が自由にのびのびと過ごされ、見守りもしやすい造りとなっている。壁には合同作品やポスターなど装飾もあり、季節感の感じられるくつろいだスペースとなっている	/
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ご利用者が過ごしやすいようにソファの配置に気を付けている。ペランダにプランターを置いたり、小さな畑を作り、ご利用者も畑作業しやすい所を作っている	/	/
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	清潔に過ごせるように換気を行い、汚染物の回収もこまめに行っている。ご家族の写真や馴染みのものを飾ったり、テレビを持ち込んだりなど本人が居心地よく過ごせるように工夫している	部屋の入り口は、自分の部屋と分かるよう、名前が掲示されている。室内はベッドと整理ダンスがあり、それぞれ使い慣れた馴染みの家具や電化製品、思い出の品を持ち込み落ち着いて過ごせるよう配置、居心地よい空間への配慮がなされている	/
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	居室の名札を、ご本人がわかりやすいように目の届くところに貼ったり、目印を付けたりなど工夫している。リビングや廊下は、手すりが付いているため、居室からトイレへ行く際も安全を考慮している。必要な方には雑床したときにわかるようにセンサーマットを使用し転倒防止できるように尽力している	/	/

# 南館

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 南館

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社是、理念を朝礼で唱和している。理念をもとに1年間の介護目標を設定しチーム、個人で目標達成に取り組んでいる
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和5年9月からコロナ禍により中止していた活動を再開しました。地域の文化祭行事に参加しました。フラダンス、獅子舞などのボランティアの訪問も再開されました
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの認知症に対する問い合わせも多く、話を聞いたり、相談を受けたりしている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年9月からコロナ禍により中止していた活動を再開しました。偶数月の第2水曜日に開催。婦人会、近隣三町の民生委員、近隣の特別養護老人ホーム職員、行政、ご利用者とその家族、職員等が参加している。利用者のホームでの生活や行事を報告し、意見交換を行っている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議でご意見を頂いている。わからないことがあれ介護保険課に質問をし、良い関係が築けている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアを目指し「どういものが拘束になるのか」「どんな声掛けが拘束になるのか」(スリー(スピーチ・ドラッグ・フィジカル)ロック)等をテーマに定期的な内部研修、ユニットでの勉強会で学んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合は、ご家族の了承をいただき、経過を見ながら廃止に向けての話し合いを各ユニットで行い、検討・実践している。継続される場合その都度ご家族から了承を頂いている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「愛と誠」の理念を中心に「丁寧な言葉や態度で接しましょう。利用者様にもスタッフにも」を目標に実践。高齢者虐待、不適切ケアをテーマに内部研修や、定例会の後の時間を使い勉強会を行い学ぶ機会を持っている。管理者は、不適切な言動がある時には注意している

# 南館

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員にリーフレットを配布し、一緒に読み学ぶ機会を持っている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはホームの方針「できること・できないこと」を分かりやすく説明し、ご利用者の意向に沿っての支援を行えるかを十分に説明し、意見交換を行い、同意を得ている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にご本人の様子をメールやLINEでお知らせしたり、面会時等に気軽に何でも言ってもらえるように声かけをしたりと、関係性作りを試みている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の管理者会、グループホーム内でのリーダー会・委員会・定例会・ユニットミーティングを行い、報告事項・現場職員の意見を聞く場となっている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しと改善を行っている。管理者は職員の働きぶりを代表者に伝えている。全職員対象の研修を1回/月開催し、個人の成長・チームでの成長を目標とし、意識・スキルアップのきっかけの場を提供している
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は全職員対象に1回/月開催し、定例会後に勉強会の場を持ち、個人の成長・チームでの成長を目標とし、意識・スキルアップのきっかけの場を提供している。法人外研修はオンラインを利用して参加しています。パソコン等の機器が必要な職員には貸すこともあります
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設との交流、近隣の病院の勉強会などに参加している

# 南館

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所にあたりご本人の希望や思いや不安を聞いて、周囲の人との関係が円滑に出来ていくように職員が間に入り、関係作りに努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がおかれる状況を聞き取り、十分に理解し、どのような要望があるのか、ホームで対応出来るものかを判断していくように努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と面談を行い、医療面などご本人に合ったサービスが提供出来るかどうかを検討している
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の活動にあたり足りないことをさりげなくサポートし一緒に行っている(洗濯物干し・洗濯物たたみ・整理整頓・掃除・食器洗いなど)
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時に、ご家族ができることや役割なども意見交換して協力を頂いている。面会時に状況報告を行い、状態の変化時には電話・LINEなどで速やかに連絡している。定期的に面会に来られているご家族もおられる
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でもあったため、状況に合わせて面会・外出を行っている。現在、面会は家族のみで玄関又は居室で15分程度としている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り話題をふり、他の利用者となじみの関係ができるように配慮している。他の利用者の居室に入ってしまうことも多く、多少のいざござはあるが、事故などの大きなトラブルにならないように間に入っている

# 南館

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後に当ホームの対応が難しい場合は、ご本人の体調、ご本人やご家族の希望にそったサービスが提供できる事業所を提案し相談にのっている
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のやりたいこと、したいことをきちんと確認したり、表情や行動から汲み取るようにしている。可能な限り実現に向けてご家族と相談し、ユニットにて話し合いを行い実行に繋げている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から直接聞き取りを行い、どのように生活してきたのか等を把握するように努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有するカ等の現状の把握に努めている	出来ない事ばかりでなく、出来ることに目を向けるよう努めている。朝・夕に申し送りを行い、職員が情報を共有把握できるようにしている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いを聞いたり感じ取ったりして1回/月に行うユニットミーティングを行っている。職員の意見を参考に介護計画の作成を行っている。また面会時や電話にてご家族の意見や要望の確認を行っている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、ご本人の言ったことや様子をipadに入力し記録している。必要に応じて、用紙を用いて記録し適切なケアを行い情報共有できるように工夫している
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でもあったため、外出を自粛していましたが、最近は感染予防に留意しながら少しずつ行こなっている。受診は、ご家族に連絡した上でスタッフが行うことが多いが、状況に応じてご家族が対応してくれたり、またご家族とスタッフで一緒に付き添うこともある

## 南館

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源の活用・交流の機会は減っている。ホームに届く市報をご利用者様とみて地域社会の変化や現状を知るようにしている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医を継続されるか、ホームの協力医療機関へ変更するかを、ご本人の状況を確認し決めている。協力医療機関の主治医には、基本2週間に1回往診していただいております、健康管理に努めている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調や表情の変化を見逃さないように、日頃からよく関わり早期発見に努めている。協力医療機関とは24時間体制で連携体制がある。毎朝(日・祝日以外)協力病院にご利用者の状態をFaxして報告相談している
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の往診時から、気軽にご利用者のことや病気について質問などできる関係づくりを心掛けている。入院前・入院中・退院時など随時必要な情報を共有している
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「終末期の看取り等について」意向確認書を記入して頂いている。また、状態の変化に応じて、その都度医師・ご家族・職員で話し合う機会を持つように日程を調整し、ホームでの支援の方向性を決定している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を社内研修でも勉強できる機会をもうけている。主治医への連絡方法は、インドネシアの職員にも理解できるようにルビ付の対応方法を提示している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に職員に災害時の対応についての勉強会を持っている。消防訓練を年2回実施している。法人内で防火防災対策委員会を作り、消防訓練やその他の企画をすすめている

# 南館

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る際にはひと声かけてから入るようにしている。出来なくなったことが多く来て来ているが、若い頃の得意なことを、そつとサポートすることで自信を失わないように支援している。介護目標の「丁寧な言葉や介護で接しましょう」をもとに各々職員が言葉使いや態度の振り返りを行っている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自分で決められない方には「これとこれどっちがいい？」等、返事をしやすいように質問の仕方を工夫したり、表情の観察やご本人の好みを把握するようにしている。また、希望に添えないことでも代替えを提案したり、ゆっくりと希望を聞くようにしている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れがあり、常にご利用者の希望に添えないこともあるが、ご本人のやりたい事やたくない事を尋ねながら、それらを出来る範囲で尊重し本人のペースでゆっくりと過ごせるように配慮している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回なじみの美容室に来ていただいて散髪を行っている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の状況の変化により一緒に作ったり盛り付ける機会はなくなったが、作っている時に新鮮な食材を見せようとする。月に1度行う手作りおやつの中では食席で一緒に作っていただいたり、その様子を見学したりと楽しんで頂いています
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、ipat記録入力している。水分を一度にまとめて取れない方は何度も水分摂取の声かけて飲んでいただく。夜間に起きた時もお茶を飲んで頂いている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声かけや誘導を行っている。自立している利用者の場合、羞恥心から洗面所で義歯を外すのを嫌がられることが多いので、声かけのタイミングや内容に配慮している。動作はできるが億劫な方には本人のペースに合わせてながら声をかけている

## 南館

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る動作と出来ない動作を見極め、必要な部分の介助のみを行うよう支援している。日中尿意がない方も訴えがある時はもとより、定期的に誘導して排泄介助を行っている。動作が自立している方でも汚染後の処理などそっと手伝っている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず自然排便ができるように水分摂取に気をつけている。入浴時や排泄介助時に、おへそ周りをなでる程度の「の」の字マッサージを行っている。また、毎日の集団体操などの運動により腸の動きへの働きかけを行っている
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望される時に普通浴、機械浴で入浴できるが、夜間の対応は行っていない。入浴順番は、こちらから声をかけたり予約をするなど、入りたくなるような声かけや工夫をしている。全員個室になっており、職員との1対1の会話を楽しみながらゆっくりと入浴している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファの配置を工夫し、食席以外にホールや廊下にくつろげる場所がある。室温調節を適温に設定し、定期的に寝具干しや洗濯を行っている。居室でくつろがれたいときには自由に返っていただいています
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者個々の介護ファイルに最新のお薬情報が添付されている。変更時には、担当の薬剤師が職員に説明。Ipad、申し送り、LINEなどで職員間での情報共有している
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、お盆拭き、洗濯物たたみなどの家事を「やろうか?」「声をかけてくれるん待っちゃったんや」と生き生きとした表情で行って下さる利用者もおられる。その後に飲む栄養ドリンク(家族様持参)も楽しみにされている。ご利用者に合わせて会話を広げていくようにしている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園まで散歩に行ったり、玄関先のベンチにて体操や談話をして過ごし、外気にあたり季節を感じるように支援している。ベランダやプランターにご利用者と出来るような野菜を植えて一緒にお世話をしている。収穫時にも一緒に行い楽しんでいただいている。小グループで地域の行事などに出かけている

## 南館

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にご本人がお金を支払う機会を設けている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら連絡したいと言われる時は施設の電話を利用して頂く。県外のご家族から電話がかかってきた時、ご本人につないでいる
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩で外出した時に、拾った落ち葉や玄関先で摘んだお花を食席に飾ったりし、季節を感じてもらっている。また、日めくりカレンダーを目のつくところに置き、毎日めくってもらい、ご利用者が月日を意識できるようにしている。季節にあったポスターや手作りの壁飾りを壁に掲示している
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が過ごしやすいようにソファの配置に気を付けている。ベランダにプランターを置いたり、小さな畑を作り、ご利用者も畑作業しやすい所を作っている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に過ごせるように換気を行い、汚染物の回収もこまめに行っている。ご家族の写真や馴染みのものを飾ったり、テレビを持ち込んだりなど本人が居心地よく過ごせるように工夫している
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札を、ご本人がわかりやすいように目の届くところに貼ったり、目印を付けたりなど工夫している。リビングや廊下は、手すりが付いているため、居室からトイレへ行く際も安全を考慮している。必要な方には離床したときにわかるようにセンサーマットを使用し転倒防止できるように尽力している